

民主島根

2019年
11.10
第1347号

発行所 松江市袖師町3-6 TEL 0852-24-2444
日本共産党島根県委員会 FAX 0852-24-6369

消費税増税で廃業考える事業所も 「軽減税率」は迷惑千万

出雲 大田県議、後藤市議らが商工会議所と懇談



(右手前から)大谷会頭、長岡専務理事らと懇談する(奥右から)大田、後藤、小村の各氏 (出雲市平田町)

日本共産党の大田陽介県議、出雲市の後藤由美市議、小村吉一同元市議は10月31日、同市平田町の平田商工会議所を訪ね、党が発表した消費税減税・廃止を求める「よびかけ」を届け、大谷厚郎会頭、長岡明生専務理事らと懇談しました。

大谷会頭は「『軽減税率』は中小企業にとって迷惑千万。消費者にとってもわかりにくく、廃業しようかという事業所も見受けられる」と指摘。消費税増税への影響について「会員へのアンケートに取り組むことについて」と語りました。

県が来年度予算編成に向けて重点見直し対象としている年間事業費10億円以上の県単独事業(23事業)には「商工会・商工会議所活動支援



日本共産党の尾村利成、大田陽介の両県議、民青同盟の吉井安見県委員

事業(14億3000万円)も含まれています。長岡専務理事は「事業承継をすすめるには商工会や商工会議所のきめ細やかな対応が必要。(商工会議所は)個々の事業所への支援だけでなく、行

「政権を担う資格なし」 尾村・大田県議ら商店街で宣伝

尾村利成は1日、公職選挙法違反疑惑で安倍政権の2閣僚が1週間で相次いで辞任したことを受け、松江市内の商店街で宣伝しました。(写真)

尾村県議は、2012年の第2次安倍政権発足以降、閣僚の辞任は10人にのぼっていると指摘し、「疑惑による閣僚の辞任が相次ぐのは、安倍首相自身が持つ『森友・加計問題』での疑惑隠ぺい体質にある」と厳しく批判

政の補完的な役割も果たしている」と話しました。大田県議は「商工会議所が果たしている役割は非常に大きいものがある。県議会の中でもしかりと要望を届けていきたい」と応じました。



全日本年金者組合島根県本部は10月28日、松江市で年金引き下げに

「年金引き下げをなげな」 松江 年金者一揆集会 市内をデモ行進

反対する年金者一揆集会を開きました。集会後、「年金の引き上げを」などと書かれたのぼり旗を掲げ、県庁まで約1キロをデモ行進しました。(写真)

県庁では、河野哲雄委員長ら22名が際限ない年金の引き下げ廃止などを求める要請書を提出しました。河野委員長は、「年金支給開始年齢引き上げの中止など、若い人も

員会が10月28日に開かれ、日本共産党の大田陽介県議が「住宅リフォーム助成制度」などについて質疑に立ちました。

大田県議は「住宅リフォーム助成事業は業者の仕事おこしにつながり、地域経済への波及効果も大きく、域内経済循環の促進に寄与する制度だ」と強調し、本事業の対象や予算を拡充するよう求めました。

真田晃宏土木部長は「2018年度において、波及効果を含めた総合効果は補

大田県議が住宅リフォーム助成拡充求める

助金額の2.7倍に当たる約32億円である」と答弁し、事業に有益性があるとの認識を示しました。

尾村利成県議は、同日開かれた建設環境委員会において「民法改定に伴い、2022年4月から成年年齢が20歳から18歳に引き下げられ、『未成年者契約取り消し権』がなくなることで若年層の消費者被害が懸念される」と指摘。「小・中・高等学校などでの体系的な消費者教育を強化することが必要」と強調し、対策を講じるよう求めました。

高年齢者も安心できる年金制度の必要性を強調。「これら切実な要望が実現するよう県として国に求めているいただきたい」と訴えました。日本共産党の尾村利成県議が同席しました。

参加者は「今の年金では、国保料や介護保険料、水道光熱費などを支払うと残るのはわずか。これ以上の年金引き下げはやめてほしい」などと訴えました。県の担当者は「お聞きした意見や要望内容を知事に伝えたい」と答えました。

鼓動

脳梗塞が再発した。しかも、姪の結婚式に福井へ帰省した時で、1週間の入院を強いられた。1回目の脳梗塞と同じ、頸動脈狭窄部位の血栓が右脳で詰まったという。とで、左手麻痺と発音障害が生じた。早い処置が功を奏し、ほぼ回復できた▼初回の時は頸動脈を過度に圧迫したことが原因で、今回は飲酒による脱水が引き金になったようだ。医師からは「常に血をサラサラにしておくことが肝要で、血栓を防ぐ薬の服用とともに、脱水症状にならないように、常に水分の補給を」とアドバイスされた▼入院するたびに思うことは、看護師さんのあまりにも多忙な仕事ぶりに頭が下がる。患者さんの中には、手足が麻痺して動けない人も多い。隣のベッドのお年寄りも脳卒中で入院し、食事から下の世話まで看護師さんが行っていた。しかも、わがままな人らしく、看護師の援助に文句ばかり言い、夜にはひんぱんにナースコールを鳴らす▼また、昨日入院して同室になった患者さんは、夕食を奥さんから食べさせてもらっている途中に喉を詰まらせ、大騒動に。結局、夜半に逝去された。さらに真夜中に、「○○さんが大変…」との大声が響き、急に廊下が騒がしくなったことも。こうしたことは、病院だけでなく介護施設でも同じであろう▼不覚の出来事だったが、唯一救いだっただのは、8Fの病室の窓から、福井平野の遠くにわが生まれ故郷をかすかに眺められたことである。そして、1週間に渡り、日々ふるさと訛りに囲まれて過ごせた。19歳にして故郷を出て半世紀、こんなに長く故郷に滞在したのは初めてのことだった。(吉)